

(3面よりつづく)

〔I〕 現在はどのように考へていますか。

1. 特に考へに変化はない
2. できることなら実施したい
3. コーディネートの方法を教えてほしい
4. 他校と一緒になら実現できるかもしれない



5. その他

- ・要請があれば考へたい 2
- ・その時にできることを考える
- ・YWCA等小さい団体に行うことから考へてみるのも良いくらいかもしれない

〔質問G〕 学生主催以外で、貴校で行われている被災地ボランティア・受け入れボランティアはありますか。

1. 学生・生徒主催のボランティア
2. 学校の教職員主催のボランティア
3. 学校の中の一組職員主催のボランティア (大学の学部など)
4. 保護者主催のボランティア



5. その他

- ・NPO関連の自活動
- ・個人的にボランティアに参加している教師や卒業生が被災地での活動のサポートを担当している
- ・ボランティア団体や旅行業者主催のツアーや参加している
- ・ハーバーボール船員が東日本大震災に関する被災復興ボランティアを行っている
- ・学校・生徒主催の募金活動を行っている
- ・施設等へのボランティア活動は既往実施しているが、被災地へのボランティアは生徒が個別で活動している
- ・教会 (教区) のボランティア
- ・個人で参加する被災地ボランティア
- ・街頭募金
- ・被災地を訪問した卒業生主催のボランティア
- ・個人での外部団体との連携

大学の部

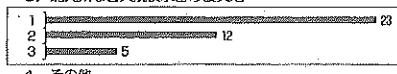
〔質問A〕 貴校では、東日本大震災以降、児童・生徒・学生が大震災の被災地を訪れて行うボランティア活動を、学校が主導して実施していますか。あるいは実施したことありますか。



〔質問B〕 質問Aで「はい」とお答えになった方への質問です。(複数回答可)

〔I〕 どの被災地を訪れましたか。

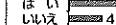
1. 東日本大震災
2. 熊本地震 (九州地震)
3. 北九が州など大規模水害の被災地



4. その他

- ・和歌山 (台風)、岩手 (台風)、栃木 (水害)、北海道 (台風)

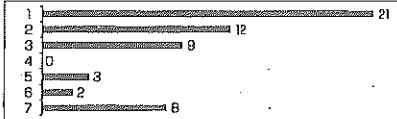
〔II〕 その被災地ボランティアには、教職員の引率をつけていますか。



その他 時々・場合による 3

〔III〕 その被災地ボランティアは、どのようなきっかけで始めましたか。

1. 生徒や学生から声が上がって
2. キリスト教学校としての使命を思って
3. 教会ネットワークのあるいはキリスト教団体の支援活動をヒントに
4. 一教会の支援活動をヒントに
5. 他校の支援活動をヒントに
6. 自治体に問い合わせて
7. 現地に知り合いから



B. その他

- ・自衛の精神の眞麗化として
- ・学校が避難所に指定されたため
- ・教員の呼びかけ
- ・教員が個人的にボランティアを行ったこと
- ・社会福祉協議会からの依頼
- ・被災地からの要請により
- ・市の災害ボランティアセンターとの協定に基づいて

〔IV〕 その被災地ボランティアでは、プログラムの立案や現地での実施はどうやって行っていますか。

1. 貴校で全て立派・実施
2. 教会ネットワークのあるいはキリスト教団体と連携して
3. 一教会と連携して
4. ボランティア団体と連携して
5. 社会福祉協議会等と連携して
6. 自治体と連携して
7. 現地の教会と連携して
8. 現地の会社や法人と連携



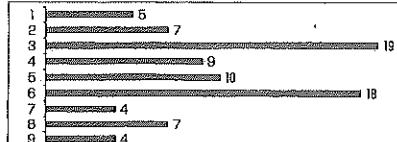
9. その他

- ・活動化に在住の卒業生と連携して
- ・自治会と連携して
- ・現地の被災者と連携して

〔V〕 その被災地ボランティアを運営するにあたり、苦労されていることは何ですか? ボランティアを始めた当初 (ア) と現在 (イ) とに分けて、それぞれお答えください。

ア ボランティアを始めた当初

1. 支援先を探すこと
2. 支援先との具体的打ち合わせ
3. 支援内容 (プログラム)
4. 審査会
5. 交通手段
6. 費用
7. 参加者の募集
8. 参加者の保護者の理解
9. 校内の教職員の理解
10. 全般的な関心の低下

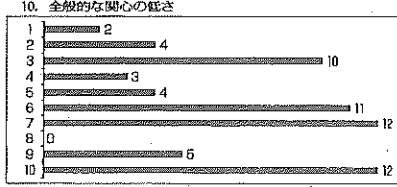


11. その他

- ・授業スケジュールの調整
- ・避難所での学生の負担や疲労に関する心配
- ・学生の安全性の確保、活動に入る時期、現地の被害状況とボランティアニーズ

イ 現在

1. 支援先を探すこと
2. 支援先との具体的打ち合わせ
3. 支援内容 (プログラム)
4. 審査会
5. 交通手段
6. 費用
7. 参加者の募集
8. 参加者の保護者の理解
9. 校内の教職員の理解
10. 全般的な関心の低下



11. その他

- ・スタッフ (教職員・学生) の確保

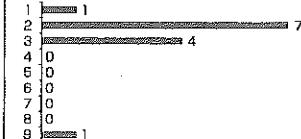
〔質問C〕 質問Aで「いいえ」とお答えになった方への質問です。(複数回答可)

〔質問D〕 質問Aで「いいえ」とお答えになった方への質問です。(複数回答可)

〔質問E〕 質問Aで「いいえ」とお答えになった方への質問です。(複数回答可)

〔I〕 実施することがなかったのはなぜですか。

1. 必要を感じなかったから
2. 自身では無理だと考えたから
3. 実施の負担が大きいから
4. 子どもの年齢から
5. 保護者の理解が得られないから
6. 教職員の理解が得られないから
7. 時期を選んだから
8. 方法がわからないから
9. 費用がかかりすぎるから

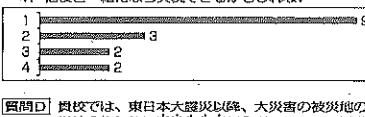


10. その他

- ・拙速にに出向くとかえって被災に迷惑や負担をかけたり、二度目になると可能性もあるので資金活動等別の形で支援を続けると考えた
- ・被災地ボランティアのあり方について専門で検討が必要なため
- ・学生が自発的に始めたため 4
- ・実施する提案、企画がなかったため
- ・両面教育と連携して対応したので
- ・防災ボランティアサークルがないため

〔II〕 現在はどのように考へていますか。

1. 特に考へに変化はない
2. できることなら実施したい
3. コーディネートの方法を教えてほしい
4. 他校と一緒になら実現できるかもしれない



〔質問F〕 質問Dで「いいえ」とお答えになった方への質問です。(複数回答可)

〔III〕 現在はどのように考へていますか。

〔IV〕 現在はどのように考へていますか。

〔V〕 現在はどのように考へていますか。

〔VI〕 現在はどのように考へていますか。

〔VII〕 現在はどのように考へていますか。

〔VIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔IX〕 現在はどのように考へていますか。

〔X〕 現在はどのように考へていますか。

〔XI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XIV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XVI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXIV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXVI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXIV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXVI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XXXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XL〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLIV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLVI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXV〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVI〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXVIII〕 現在はどのように考へていますか。

〔XLXIX〕 現在はどのように考

加盟校アンケート集計

災害ボランティアの現状と課題

東日本大震災から今月11日でちょうど7年。復興市からの発表では避難されている方はまだ5万人ほどで、大地震の5年後には全ての仮設住宅がなくなった1905年の阪神・淡路大震災よりもかなり大幅に復興が遅れています。仮設住宅を出られる方がいる一方で、仮設住宅の集約により別の仮設住宅への新たな転居を強いられている方もいます。仮設住宅に移られてからも心の話を深めている方もいます。

普段を抱えておられる方にとって、ボランティアで助ける学生や生徒たちの若い力が心の支えになったり、新たな出発へ背中を押してくれるものになっていたりする例が、これまで多くあります。また、これからもまだその继续が必要とされるることは間違いません。

全国広報委員会では、学生や生徒が行う被災地ボランティアについて、そのコーディネーターのより良いやり方を知りたい、情報交換をしてできれば手を挙げながら進めてゆきたい。今まで行う機会を持てなかった方が方法を教えてもらったり是非実施してみたいなどといった提案がなされ、アンケートテーマとして提出されました。今回のアンケートは、この提案に基づいて作成し実施したものです。

なお、小学校の部については、集計結果を紙上に掲載せず所見のみを掲載しました。集計結果は教育局HP「刊行物について」→「刊行物を読む」にアクセスください。下記QRコードからご覧ください。年末年始のご多忙の時期にご協力いただきまして、深く感謝いたします。(広報委員会)

種別	発送数	回答数	回答率
小学校	33校	21校	63.6%
中 高	108校	61校	56.5%
大 学	69校	47校	68.1%
計	210校	129校	61.4%



小学校の部・集計所見

6歳から12歳の小学生という年齢から当然の結果ではあります。が、訪問・受け入れどちらも実施している学校は僅少で、3校でした。その3校ともに訪問のボランティアを実施していますが、キリスト教学校教育同盟ツアーに参加したり、現地に知り合いがいるなどといった要因から実施し始め、3校とも自校で全て立案・実施していました。また、うち2校は受け入れボランティアも実施している学校でした。

このほかの学校の回答では、児童の訪問は叶わなくて、保護者や教職員がグループを作ってボランティアに出かけ、その結果を学校へ持ち帰り児童に還元している例が何校かで見られました。また、現地のボランティアは無理でも、献金・貢品・カードや手紙の送付といった活動を推奨している学校もありました。また、神奈川県立小学校協会の部会で50年にわたって受けられていました「まめ記者講習会」で、東京都や千葉県の小学校の教職員とともに2014年と2015年、石巻市や東松島市が訪れた石巻日日新聞社や石巻のキッズメディアステーションと連携して現地取材・新聞発信をする活動をし、以来毎年して石巻日日新聞を購読支援している学校など、個別の支援の方法を実践している学校もありました。さらに今後にかけては、訪問・受け入れとともに、できるごとなら実施したいと考えている小学校もありました。

中学・高校の部

質問A 質問Aでは、東日本大震災以降、児童・生徒・学生・教職員が災害時の被災地を防いで行うボランティア活動を、学校が主催して実施していますか。あるいは実施したことありますか。



質問B 質問Aで「はい」とお答えになった方への質問です。
(複数回答可)

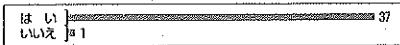
I どの被災地を防ぎましたか。

1. 東日本大震災
2. 熊本地震(九州地震)
3. 北九州市など大規模水害の被災地



4. その他
 - ・茨城(水害) 2
 - ・阪神淡路大震災

II その被災地ボランティアには、教職員の引率をつけていますか。



III その被災地ボランティアは、どのようなきっかけで始めましたか。

1. 生徒や学生から声が上がった
2. キリスト教学校としての使命を思って
3. 教会ネットワーク、あるいはキリスト教団体の支援活動をヒントに
4. 一教会の支援活動をヒントに
5. 他校の支援活動をヒントに
6. 自治体に想い合わせて
7. 現地に知り合いでいて



B. その他

- ・多くの支援プログラムへの参加をきっかけに
- ・ボランティアの要素より研修を含める形で
- ・関係教派のネットワークを使って
- ・個人で被災地にボランティアとして参加して
- ・卒業生の活動
- ・修学旅行の1プログラムとして

IV その被災地ボランティアでは、プログラムの立案や現地での実施はどうのに行っていますか。

1. 自校で全て立案・実施
2. 教会ネットワーク、あるいはキリスト教団体と連携して
3. 一教会と連携して
4. ボランティア団体と連携して

5. 社会福祉協議会等と連携して
6. 自治体と連携して
7. 現地の学校と連携して
8. 現地の会社や法人と連携

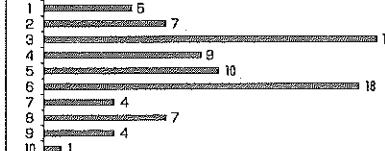


9. その他
 - ・他校の活動に合流させてもらった
 - ・大学と共働
 - ・生徒が立案・企画し現地団体と調整
 - ・国際N G Oを通じて

V その被災地ボランティアを運営するにあたり、苦労されていることは何かですか。ボランティアを始めた当初(ア)と現在(イ)とに分けて、それぞれお答えください。

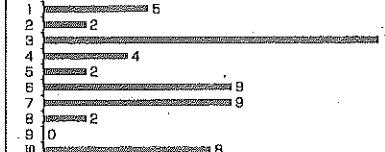
A ボランティアを始めた当初

1. 支援先を探すこと
2. 支援先との具体的な打ち合わせ
3. 支援内容(プログラム)
4. 宿泊先
5. 交通手段
6. 費用
7. 参加者の募集
8. 参加者の保護者の理解
9. 校内の教職員の理解
10. 全般的な関心の低さ



イ 現在

1. 支援先を探すこと
2. 支援先との具体的な打ち合わせ
3. 支援内容(プログラム)
4. 宿泊先
5. 交通手段
6. 費用
7. 参加者の募集
8. 参加者の保護者の理解
9. 校内の教職員の理解
10. 全般的な関心の低さ



11. その他
 - ・引率者の確保
 - ・担当教員の動員
 - ・教員が多忙
 - ・関心はあっても具体的な関係を保持すること

質問C 質問Aで「いいえ」とお答えになった方への質問です。
(複数回答可)

I どの被災地を防ぎましたか。

1. 東日本大震災
2. 熊本地震(九州地震)
3. 北九州市など大規模水害の被災地

4. その他
 - ・茨城(水害) 2
 - ・阪神淡路大震災

II その被災地ボランティアには、教職員の引率をつけていますか。

III その被災地ボランティアは、どのようなきっかけで始めましたか。

1. 生徒や学生から声が上がった
2. キリスト教学校としての使命を思って
3. 教会ネットワーク、あるいはキリスト教団体の支援活動をヒントに
4. 一教会の支援活動をヒントに
5. 他校の支援活動をヒントに
6. 自治体に想い合わせて
7. 現地に知り合いでいて

B. その他

- ・多くの支援プログラムへの参加をきっかけに
- ・ボランティアの要素より研修を含める形で
- ・関係教派のネットワークを使って
- ・個人で被災地にボランティアとして参加して
- ・卒業生の活動
- ・修学旅行の1プログラムとして

IV その被災地ボランティアでは、プログラムの立案や現地での実施はどうのに行っていますか。

1. 自校で全て立案・実施
2. 教会ネットワーク、あるいはキリスト教団体と連携して
3. 一教会と連携して
4. ボランティア団体と連携して

はい 8
いいえ 53

質問D 質問Dで「はい」とお答えになった方への質問です。
(複数回答可)

I どのような施設に迎え入れていますか。

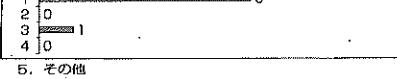
1. 学校の校舎
2. 学校の外(校外施設)
3. キリスト教関連施設
4. 公的宿泊施設
5. 一般宿泊施設(ホテル・旅館等)



II その受け入れ実施時期、日数はどうですか。それをお答えください。

A 実施期間

1. 夏休み
2. 冬休み
3. 春休み
4. 普通の授業期間



5. その他

- ・文化祭への受け入れと交換プログラム

イ 実施日数

1. 1日
2. 2泊2日
3. 2泊3日
4. 3泊4日

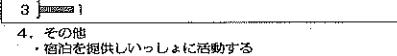


5. それ以上

- ・4泊5日

VI どのような受け入れ方をしていますか。

1. 一緒に宿泊する
2. 生徒や学生の家にホームステイ
3. 一緒に通学など



4. その他

- ・宿泊を提供しないままに活動する

- ・朝の体操、帰浴、勉強、各食事用意、昼の寝眠など

- ・文化祭に招き、話し合いの時間、町の見学等の交流(生徒会中心)

- ・体験を買っていただく

VII その受け入れボランティアを運営するにあたり、苦労されていることは何ですか。

1. 宿泊

2. 被災された方々の宿泊の費用

3. 被災された方々の往復の交通手段

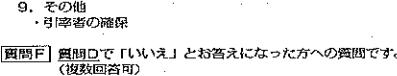
4. 迎え入れた際の食事

5. 被災された方々の募集

6. 参加者の保護者の理解

7. 校内の教職員の理解

8. 全般的な関心の低さ



9. その他

- ・引率者の確保

質問F 質問Dで「いいえ」とお答えになった方への質問です。
(複数回答可)

I 実施することがなかったのはなぜですか。

1. 必要を感じなかっただから

2. 自校では無理だと考えたから

3. 実施の負担が大きかったから

4. 子どもの年齢だから

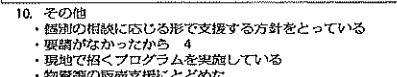
5. 保護者の理解が得られないから

6. 教職員の理解が得られないから

7. 時間を逸したから

8. 方法がわからないから

9. 費用がかかりすぎるから



10. その他

- ・既別の相談に応じる形で支援する方針をとっている

- ・要請がなかったから

- ・現地で招くプログラムを実施している

- ・物資等の反応支援にとどめた

- ・現地へ出向くことが最も大切だと考えたから

- ・校内ではなく他の宿泊施設を利用して受け入れキャンプを実施した

- ・機会がなかったから

- ・大学で実施しているから

- ・それぞれの所属教会の活動に参加しているから

- ・個別相談の他法人で実施しているから

- ・宿泊施設をもっていないから

- ・自校も被災地だったから

- ・具体的な発想がなかった

(2面につづく)

